長野県上田地域における
公共交通活性化プラン

上田市内を運行しているバス

一般路線バス	菅平高原線、長野病院線、 室賀線、塩田線、長久保線 信州の鎌倉シャトルバス、いで湯バス
生活交通路線バス （国・県補助路線）	真田線、佐久上田線、 青木線、鹿教湯線
廃止路線代替バス （上田市補助路線）	傍陽線、豊殿線、祢津線、 県道川西線、西丸子線、丸子線、 中仙道線、武石線、（渋沢線）
コミュニティバス	上田地域：循環バス、オレンジバス
	丸子地域：循環バス
	真田地域：ふれあいバス
	武石地域：デマンド交通

バス運行状況

1．輸送人員　　単位：人

	17年度	18年度	増減
一般路線バス	260,150	235,530	△ 24,620
生活交通路線バス	716,567	671,503	△ 45,064
廃止路線代替バス	219,229	160,822	△ 58,407
コミュニティバス	90,959	93,184	2,225
計	1,286,905	1,161,039	△ 125,866

2．損益　　単位：千円

	17年度	18年度	増減
一般路線バス	△ 17,923	△ 24,506	△ 6,583
生活交通路線バス	△ 53,554	△ 59,076	△ 5,522
廃止路線代替バス	△ 63,719	△ 58,223	5,496
コミュニティバス	△ 44,112	△ 53,367	△ 9,255
計	△ 179,308	△ 195,172	△ 15,864

※廃止路線代替バスの損益減少は、運行本数の削減及び運行単価の見直しによるもの。

公共交通活性化プラン策定の目的

平成18年3月に1市2町1村が合併して誕生した上田市の公共交通は、合併前の行政区域ごとに構築されたもの。

↓

既存の公共交通体系を活用し、誰もが公平に利用できる公共交通体系となるよう見直しを行い、公共交通の利用促進を図る。

公共交通活性化プラン策定検討会委員構成

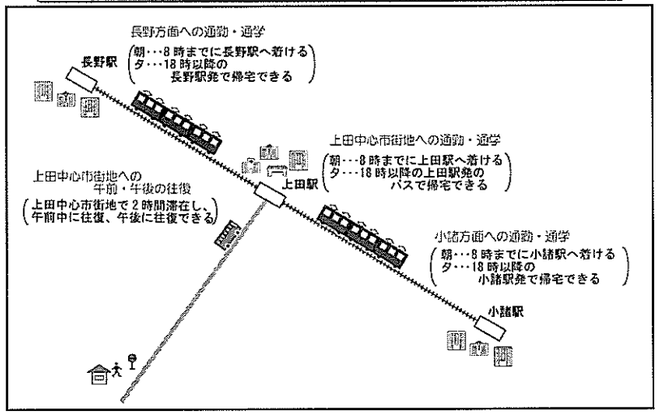
交通事業者	上電バス㈱、千曲バス㈱、JRバス関東㈱、 しなの鉄道㈱、上田電鉄㈱、 長野県タクシー協会上小支部
学識経験者	信州大学工学部教授
関係団体	上小圏域障害者総合支援センター、上田商工会議所、 上田観光コンベンション協会、上田市婦人団体連絡協議会 豊殿地区循環バス運営委員会、上田市福寿クラブ連合会、 上田市身体障害者福祉協会、上小高等学校校長会
地域代表	上田市自治会連合会(上田、丸子、真田、武石各地域代表)
行政機関	国土交通省北陸信越運輸局、長野県、上田市

公共交通整備の基本方針

- 誰もが公平に利用できる公共交通体系の構築
- 効率的な公共交通体系の構築
- 鉄道との連携を図る公共交通体系の構築
- 地域づくりを支援する公共交通体系の構築
- 利用者主体の公共交通体系の構築

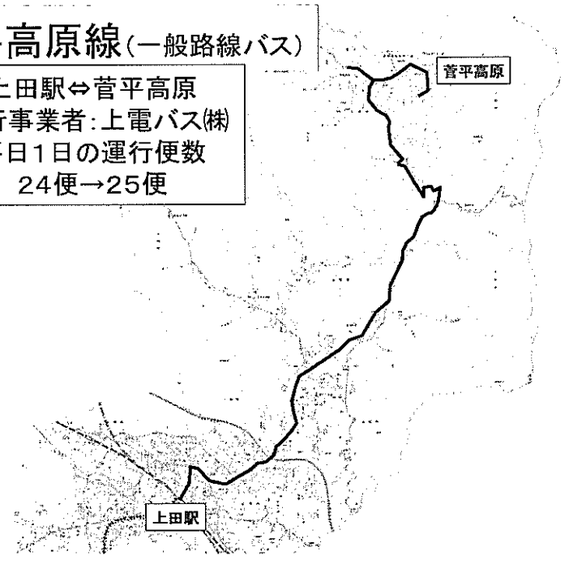
公共交通整備の基本サービスレベル

①長野方面・小諸方面への通勤・通学が可能
②上田中心市街地への通勤・通学が可能
③上田中心市街地への午前・午後の往復が可能



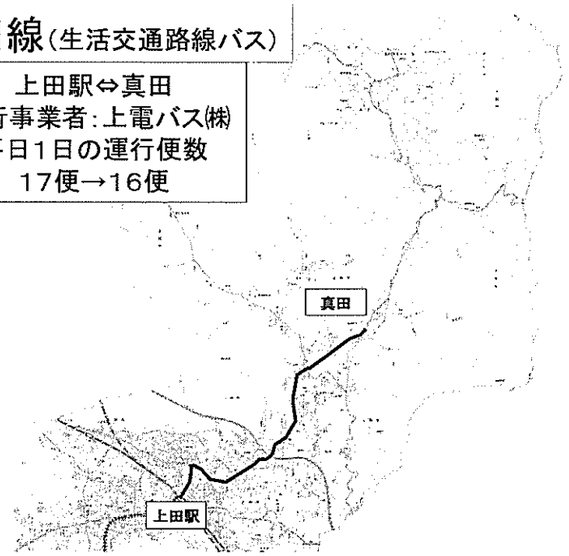
菅平高原線(一般路線バス)

上田駅⇔菅平高原
運行事業者:上電バス㈱
平日1日の運行便数
24便→25便



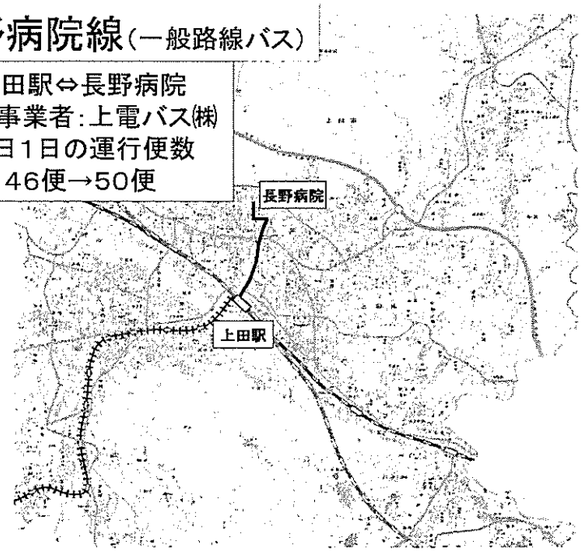
真田線（生活交通路線バス）

上田駅⇔真田
運行事業者：上電バス㈱
平日1日の運行便数
17便→16便



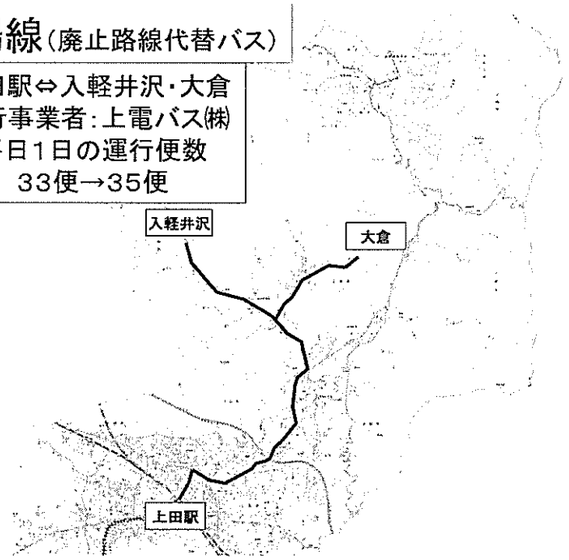
長野病院線（一般路線バス）

上田駅⇔長野病院
運行事業者：上電バス㈱
平日1日の運行便数
46便→50便



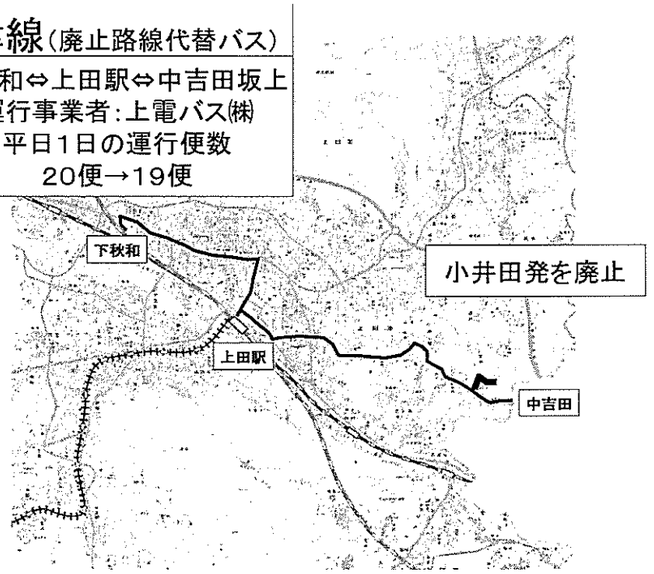
傍陽線（廃止路線代替バス）

上田駅⇔入軽井沢・大倉
運行事業者：上電バス㈱
平日1日の運行便数
33便→35便



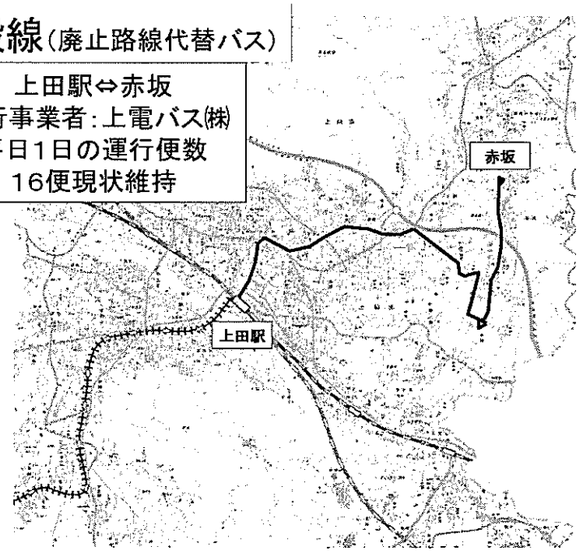
祢津線（廃止路線代替バス）

下秋和⇔上田駅⇔中吉田坂上
運行事業者：上電バス㈱
平日1日の運行便数
20便→19便



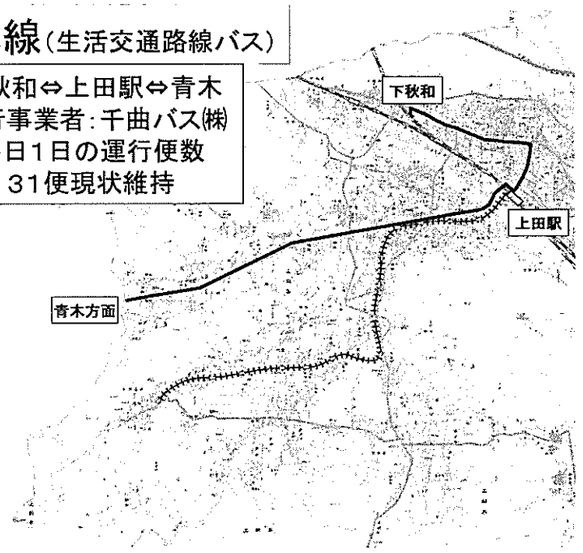
豊殿線（廃止路線代替バス）

上田駅⇔赤坂
運行事業者：上電バス㈱
平日1日の運行便数
16便現状維持



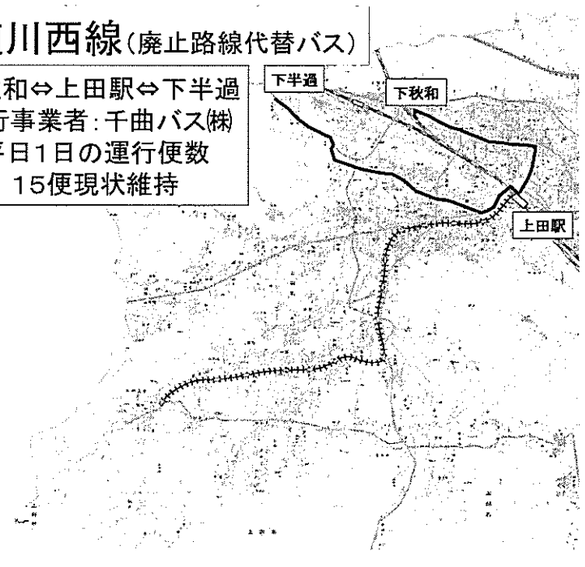
青木線（生活交通路線バス）

下秋和⇔上田駅⇔青木
運行事業者：千曲バス㈱
平日1日の運行便数
31便現状維持



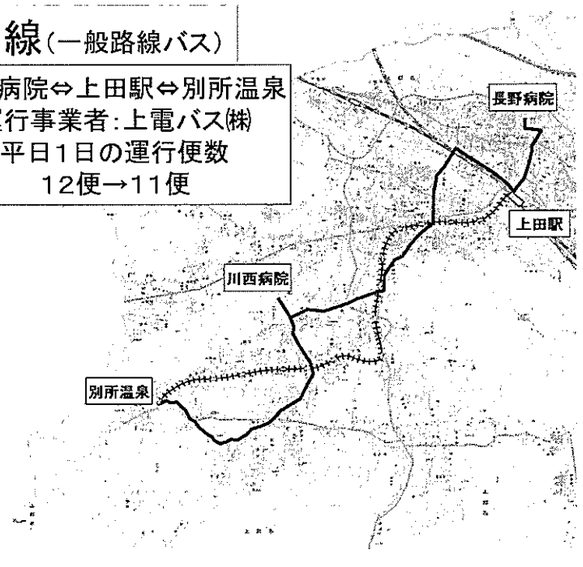
県道川西線（廃止路線代替バス）

下秋和⇔上田駅⇔下半過
運行事業者：千曲バス㈱
平日1日の運行便数
15便現状維持

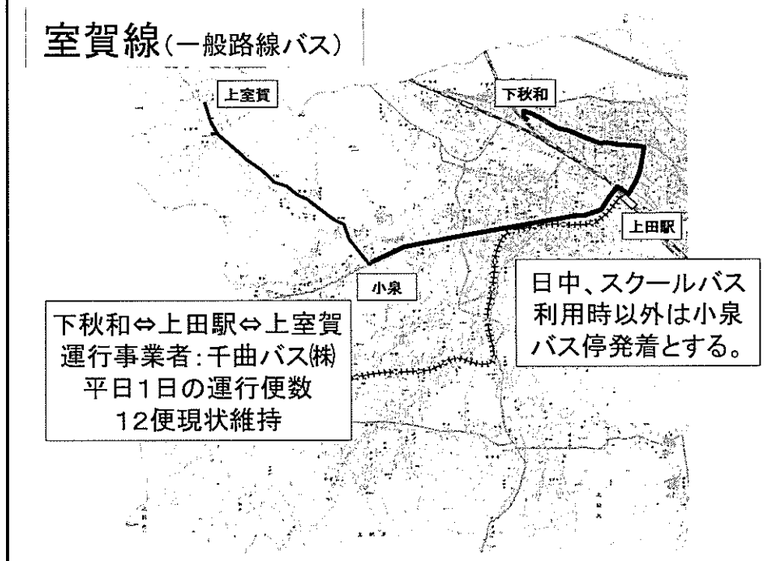


塩田線（一般路線バス）

長野病院⇔上田駅⇔別所温泉
運行事業者：上電バス㈱
平日1日の運行便数
12便→11便



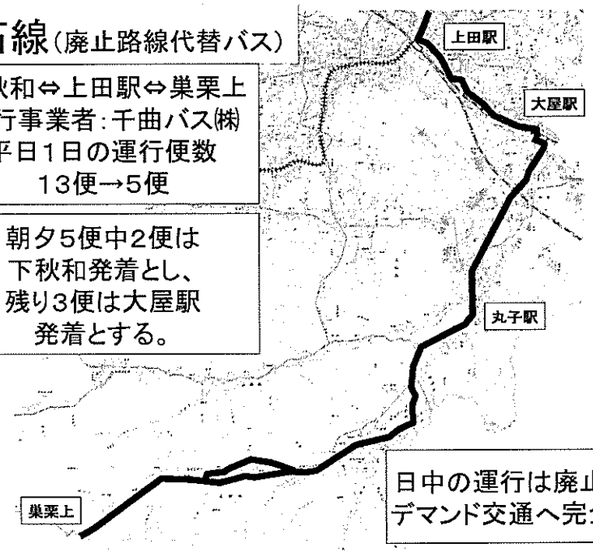
室賀線（一般路線バス）



下秋和⇔上田駅⇔上室賀
運行事業者：千曲バス㈱
平日1日の運行便数
12便現状維持

日中、スクールバス利用時以外は小泉バス停発着とする。

武石線（廃止路線代替バス）

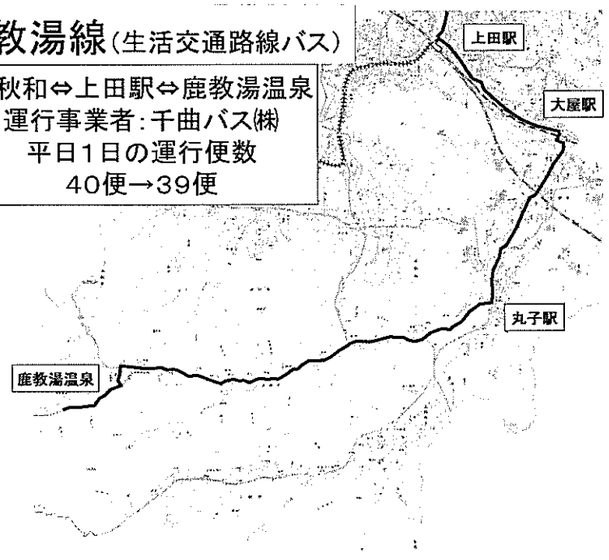


下秋和⇔上田駅⇔巣栗上
運行事業者：千曲バス㈱
平日1日の運行便数
13便→5便

朝夕5便中2便は下秋和発着とし、残り3便は大屋駅発着とする。

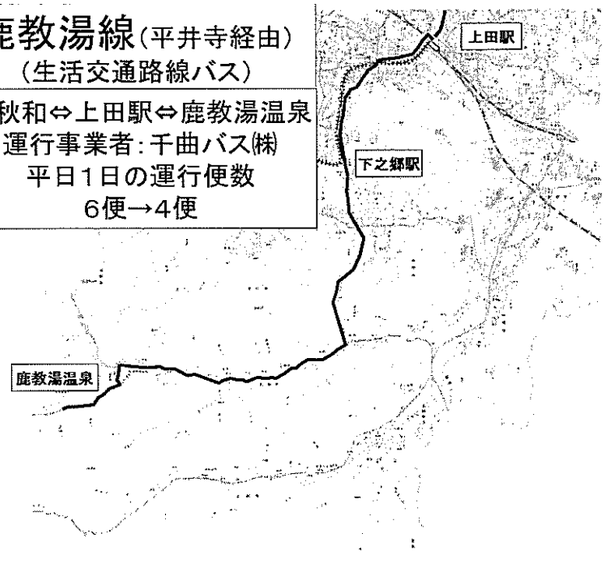
日中の運行は廃止とし、デマンド交通へ完全移行

鹿教湯線（生活交通路線バス）



下秋和⇔上田駅⇔鹿教湯温泉
運行事業者：千曲バス㈱
平日1日の運行便数
40便→39便

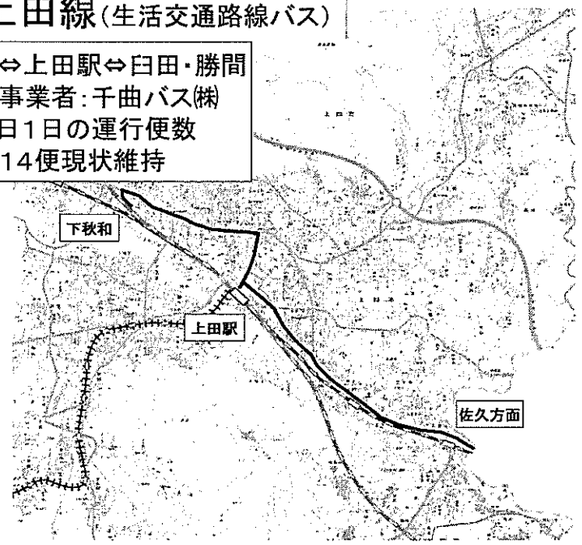
鹿教湯線（平井寺経由）（生活交通路線バス）



下秋和⇔上田駅⇔鹿教湯温泉
運行事業者：千曲バス㈱
平日1日の運行便数
6便→4便

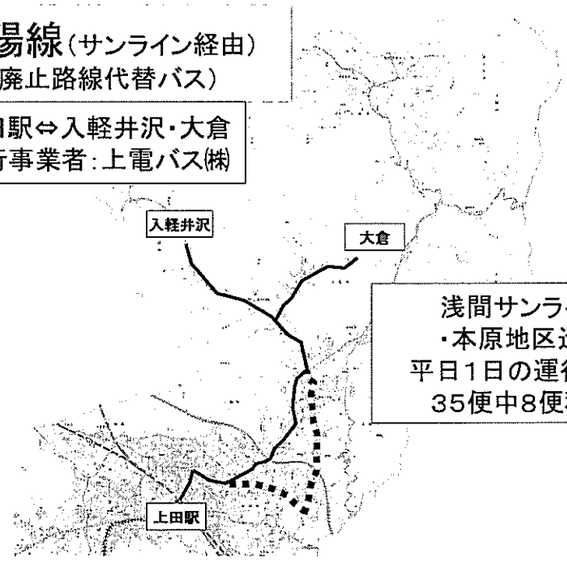
佐久上田線（生活交通路線バス）

下秋和⇔上田駅⇔臼田・勝間
運行事業者：千曲バス㈱
平日1日の運行便数
14便現状維持



傍陽線（サンライン経由）
（廃止路線代替バス）

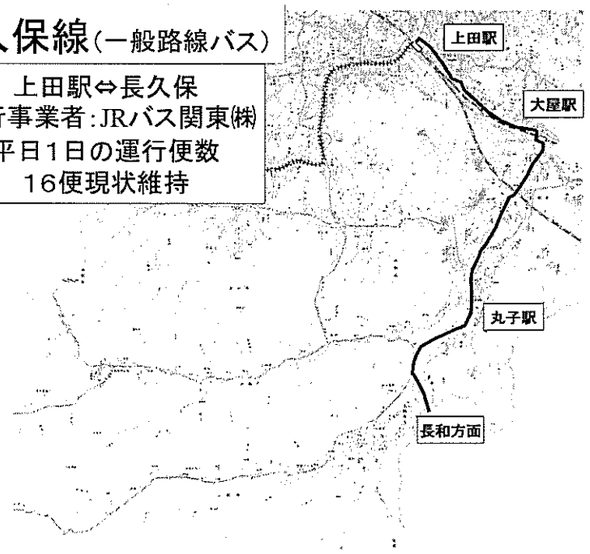
上田駅⇔入軽井沢・大倉
運行事業者：上電バス㈱



浅間サンライン
・本原地区迂回
平日1日の運行便数
35便中8便移行

長久保線（一般路線バス）

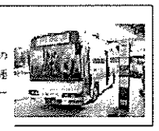
上田駅⇔長久保
運行事業者：JRバス関東㈱
平日1日の運行便数
16便現状維持



コミュニティバス

【上田地域】循環バス

高齢者、通勤・通学者、諸施設利用者等の交通手段確保のため、平成9年1月から運行。上田地域「東コース」、「西コース」の2コースで運行、運賃は1乗車100円、300円。



【丸子地域】循環バス

交通手段の確保が困難な高齢者、障害者等の生活圏の拡大支援を目的に運行。

丸子地域内を一日4便運行、運賃は1乗車200円

【武石地域】
デマンド交通スマイル号

地域の実情にあった地先な交通システムの運行を目指し、民本の自家バス、乗合限定運送バス等の廃止、生活交通確保代替バスの運行本数の削減を行い、合併前の平成18年2月6日からデマンドタクシーを含めた運行。武石地域内にフリー乗降、その隣接地域では、至近限定地としてる箇所に限定、事前予約により運行し、利用料金は大屋駅まで600円、その他300円。

【上田地域】
オレンジバス

高齢者などの移動制約者の交通手段の確保、交通不便地区の解消、街の活性化等を図るため、運行。基本的には高齢者福祉センターへの送迎をまとし、途中乗降を組み合わせた。上田地域内6コース、各コース週2回運行。運賃は、60歳以上・障害者・乳幼児は無料。それ以外は100円。左岸循環バス及び高齢者福祉センター「協寿号」の見直しにより、平成13年10月1日から運行。

【真田地域】ふれあいバス

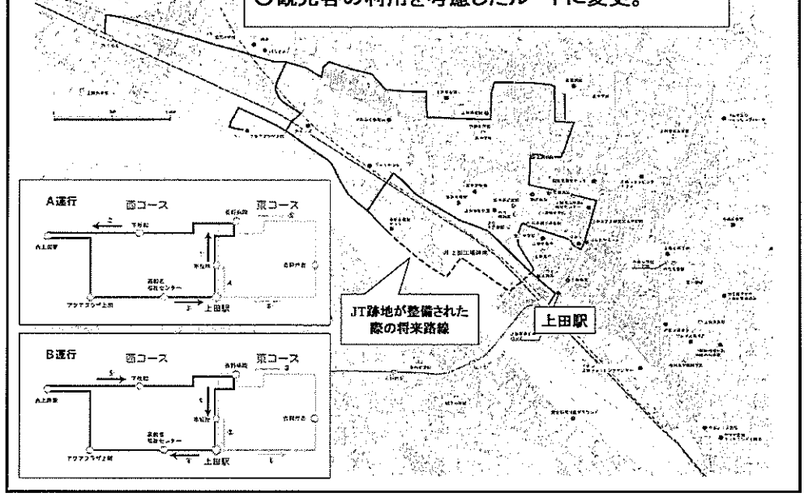
真田地域の老人センター企業者する福祉巡回送迎バス。シルバー人材センターに委託。同陽方面2便、長・本原方面2便運行。運賃無料

【豊殿地域】
自主運行バスあやめ号

地元の振興会と自治会が中心の運営委員会を組織し、自主的に地区内に循環バスの運行を実施。平成14年から研究会を設置して検討してきた。25回の研究会、アンケート調査、自治会長との合同会議等を経て、平成15年4月18日から試験運行開始。平成19年1月12日からの本運行開始。火・金曜日運行、運行経費を地域住民が負担(戸あたり年額1000円、1乗車200円)

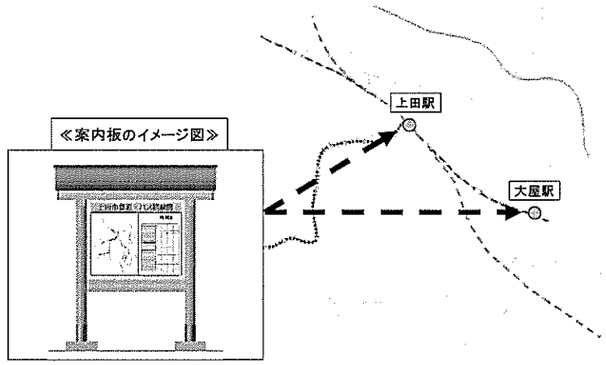
上田地域循環バス

○東コース、西コースを統合し、8の字運行とする。
（双方向に運行を行う。）
○観光客の利用を考慮したルートに変更。



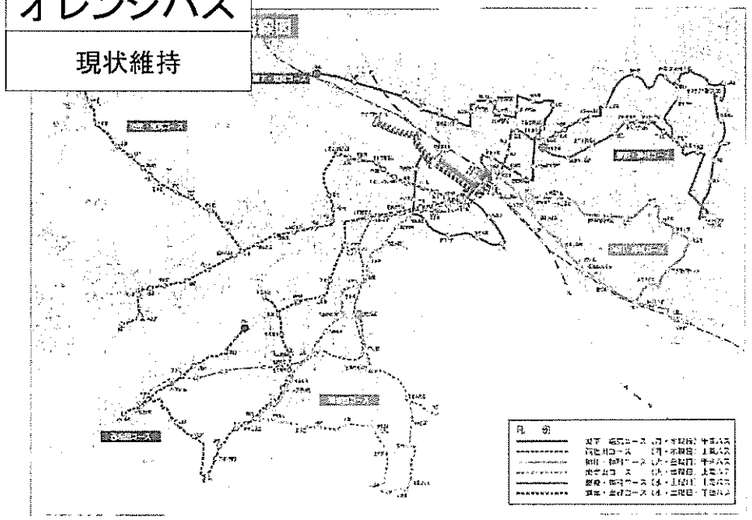
乗り継ぎ情報提供表示板の設置

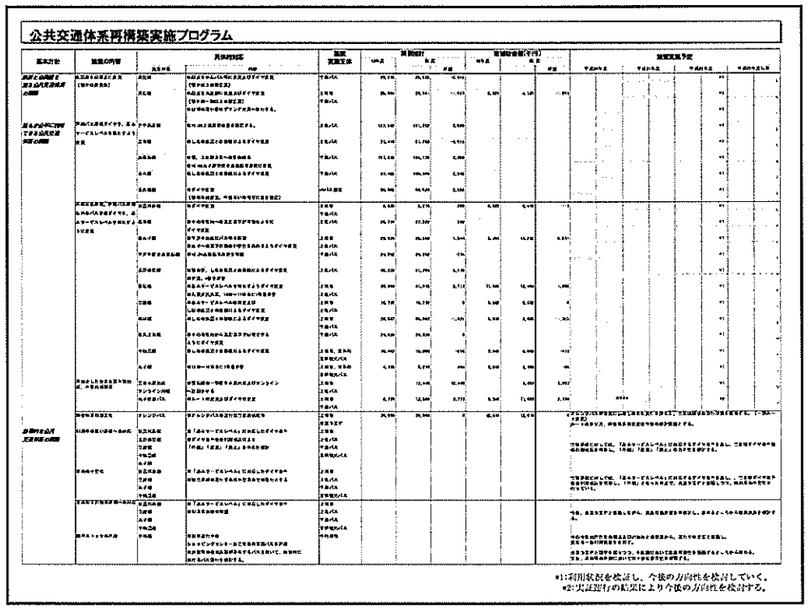
鉄道とバスの結節点である上田駅と大屋駅に、バスの乗り継ぎ情報を分かりやすく提供する案内板を設置。



オレンジバス

現状維持

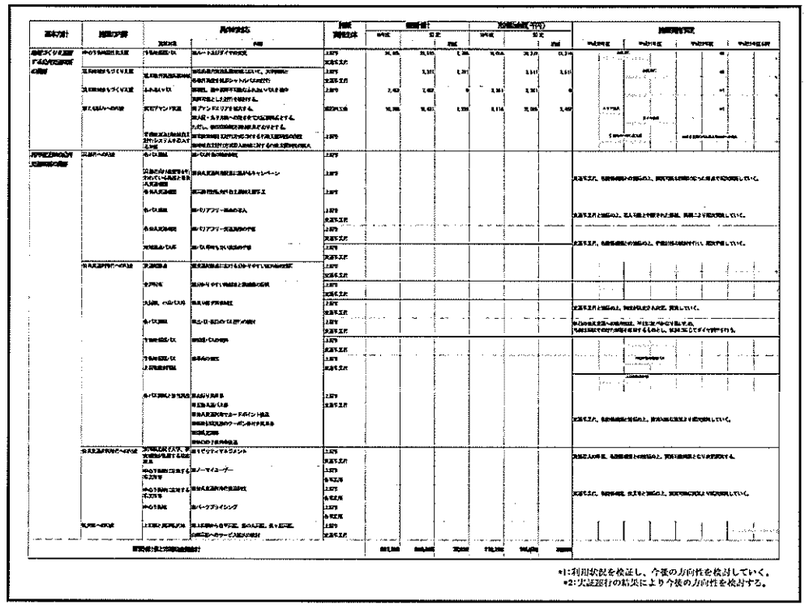




公共交通体系再構築実施プログラム

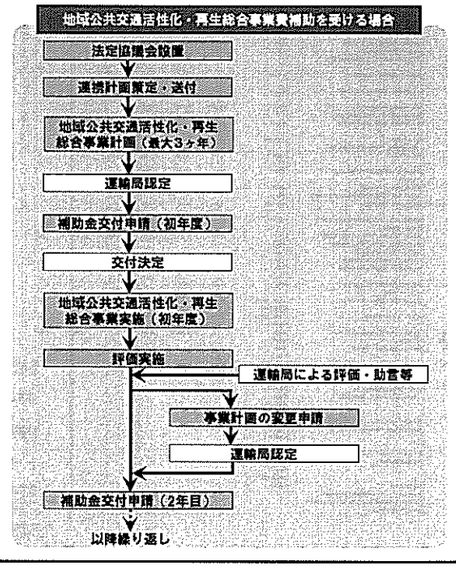
基本方針	施策の内容	具体的対応		施策実施主体	H29計画			官補助金額（千円）			施策実施予定				
	主な手法		内容		1年目	2年目	3年目	H29当	H30当	H31当	H29当	H30当	H31当	H32当	H33当以降
高齢者の利用を含む公共交通体系の構築	定期路線バス	現状維持	現状維持を図るため、補助金を交付する。	千曲バス	75,110	75,110	42,000								
		路線再編	利用者数減少傾向にあるため、路線再編を検討する。 【平成30～32年度】 利用状況を踏まえ、デマンドバスへ移行する。	上電バス 千曲バス	26,500	25,500	14,825	8,500	4,250	2,125					
高齢者の利用を含む公共交通体系の構築	予約に応じ運行するが、定まったルートやダイヤはないデマンド型交通		毎年度、利用者数を検討する。	上電バス	122,500	121,250	8,000								
	乗合タクシー	定時制	新しい地域ニーズの把握のためダイヤ改正	上電バス	72,440	61,250	4,000								
		区域拡大型	利用者数減少傾向にあるため、路線再編を検討する。 【平成30～32年度】 利用状況を踏まえ、デマンドバスへ移行する。	千曲バス	93,500	104,125	6,000								
		迂回型	新しい地域ニーズの把握のためダイヤ改正	千曲バス	97,440	109,000	6,000								
		区域運行	利用者数減少傾向にあるため、路線再編を検討する。 【平成30～32年度】 利用状況を踏まえ、デマンドバスへ移行する。	千曲バス	96,500	98,500	6,000								
	自家用有償旅客運送（市町村運営有償運送、交通空白地有償運送、福祉有償運送）	地区内有償	現状維持	上電バス	4,500	5,175	300	4,500	4,140						
		区域有償	新たな地区への導入を検討する。	上電バス	25,750	27,500	300								
		集合交通	新たな地区への導入を検討する。	上電バス	25,500	25,500	1,500	5,100	10,200	5,100					
		予約制乗合タクシー	新たな地区への導入を検討する。	千曲バス	25,750	25,250	500								
		定時定路線	新たな地区への導入を検討する。	上電バス	46,500	51,250	3,000								
		路線バス	利用者数減少傾向にあるため、路線再編を検討する。 【平成30～32年度】 利用状況を踏まえ、デマンドバスへ移行する。	上電バス	25,000	23,500	2,000	12,500	12,500	1,000					
		定時制	新たな地区への導入を検討する。	上電バス	16,750	16,750	0	8,500	8,250	0					
		区域制	新たな地区への導入を検討する。	上電バス	25,500	26,000	1,000	8,500	8,500	500					
		生活交通路線	新たな地区への導入を検討する。	千曲バス	24,500	24,500	0								
		予約制	新たな地区への導入を検討する。 【平成30～32年度】 利用状況を踏まえ、デマンドバスへ移行する。	上電バス 千曲バス 上電バス	25,000	26,000	500	8,500	8,500	500					
		乗合タクシー	新たな地区への導入を検討する。	千曲バス	6,000	6,000	0	3,000	3,000	0					
	市町村有償運送（市町村運営有償運送、交通空白地有償運送、福祉有償運送）	福祉有償運送	新たな地区への導入を検討する。	上電バス	6,000	6,000	0	3,000	3,000	0					
		デマンド型	新たな地区への導入を検討する。	上電バス	6,000	6,000	0	3,000	3,000	0					
		予約制乗合タクシー	新たな地区への導入を検討する。	千曲バス	6,000	6,000	0	3,000	3,000	0					
		区域運行	新たな地区への導入を検討する。	上電バス	6,000	6,000	0	3,000	3,000	0					
		定時制	新たな地区への導入を検討する。	上電バス	6,000	6,000	0	3,000	3,000	0					
		路線バス	新たな地区への導入を検討する。	千曲バス	6,000	6,000	0	3,000	3,000	0					
		予約制	新たな地区への導入を検討する。	千曲バス	6,000	6,000	0	3,000	3,000	0					
		生活交通路線	新たな地区への導入を検討する。	千曲バス	6,000	6,000	0	3,000	3,000	0					
		予約制	新たな地区への導入を検討する。 【平成30～32年度】 利用状況を踏まえ、デマンドバスへ移行する。	上電バス 千曲バス 上電バス	6,000	6,000	0	3,000	3,000	0					
		乗合タクシー	新たな地区への導入を検討する。	千曲バス	6,000	6,000	0	3,000	3,000	0					
交通空白地有償運送	自家用有償旅客運送	デマンドバス	新デマンドバスの導入を含めた地区の検討	上電バス	25,500	25,500	0	12,750	12,750	0	・デマンドバスの導入を含めた地区の検討を行う。 【平成29年度】 ・デマンドバス導入検討委員会等での協議を開催する。				
交通空白地有償運送	自家用有償旅客運送	定期路線	新「あおターズレールバス」の導入に伴うダイヤ改正	千曲バス											
		区域運行	新デマンドバスの導入に伴うダイヤ改正	千曲バス											
		定時制	「大屋線」「武石」「丸山」各々の改正	千曲バス											
		予約制		千曲バス											
		乗合タクシー		千曲バス											
	自家用有償旅客運送	定期路線	新「あおターズレールバス」の導入に伴うダイヤ改正	千曲バス											
		区域運行	新デマンドバスの導入に伴うダイヤ改正	上電バス											
		定時制		千曲バス											
		予約制		千曲バス											
		乗合タクシー		千曲バス											
	市町村有償運送（市町村運営有償運送、交通空白地有償運送、福祉有償運送）	福祉有償運送	新「あおターズレールバス」の導入に伴うダイヤ改正	千曲バス											
		定時制		上電バス											
		予約制		千曲バス											
		乗合タクシー		千曲バス											
	福祉輸送	予約制	新デマンドバスの導入に伴うダイヤ改正 【平成30～32年度】 利用状況を踏まえ、デマンドバスへ移行する。	千曲バス 上電バス											

※1:利用状況を検証し、今後の方向性を検討していく。
※2:実証運行の結果により今後の方向性を検討する。



*1：利用状況を検証し、今後の方向性を検討していく。
*2：実証運行の結果により今後の方向性を検討する。

事業実施スケジュール



公共交通体系再構築実施プログラム

基本方針	施策の内容	具体的対応		施策実施主体	需要推計			市補助金額(千円)			施策実施予定			
		施策対象	内容		18年度	想定	増減	18年度	想定	増減	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度以降
鉄道との連携を図る公共交通体系の構築	鉄道駅を起終点に変更 （朝夕は変更無）	室賀線	■起点を小泉バス停に変更及びダイヤ変更 （朝夕は上田駅直通）	千曲バス	29,870	26,925	-2,945						*1	
		武石線	■起点を大屋駅に変更及びダイヤ変更 （朝夕の一部は上田駅直通） ■昼間の運行便はデマンド交通へ移行する。	上田市 千曲バス	25,694	23,741	-1,953	5,521	4,123	-1,398			*1	
誰もが公平に利用できる公共交通体系の構築	幹線バス路線ダイヤを、基本サービスレベルを満たすよう変更	菅平高原線	■19:50上田駅発の便を設定する。	上電バス	127,682	131,332	3,650						*1	
		真田線	■しなの鉄道との接続によるダイヤ変更	上電バス	71,418	61,763	-9,655						*1	
		鹿教湯線	■朝、上田駅方面への便の統合 ■16:05丸子駅前発を鹿教湯車庫発に変更	千曲バス	191,836	194,136	2,300						*1	
		青木線	■しなの鉄道との接続によるダイヤ変更	千曲バス	97,455	100,400	2,945						*1	
		長久保線	■ダイヤ変更 （朝の時刻変更、午後早い時間帯に便を設定）	JRバス関東	66,065	68,620	2,555						*1	
	再編対象路線、幹線バス路線以外のバス路線ダイヤを、基本サービスレベルを満たすように変更	県道川西線	■ダイヤ変更	上田市 千曲バス	4,920	5,219	299	6,523	6,410	-113			*1	
		塩田線	■中心市街地への通勤通学が可能なようにダイヤ変更	上電バス	26,730	27,322	592						*1	
		西丸子線	■平井寺地区にバス停を新設 ■丸子への通学利用の利便性を高めるようダイヤ変更	上田市 上電バス	23,924	25,568	1,644	5,764	14,275	8,511			*1	
		平井寺経由鹿教湯線	■15:20鹿教湯車庫発を削減	千曲バス	24,992	24,262	-730						*1	
		長野病院線	■朝の便、しなの鉄道との接続によるダイヤ変更 ■夕方、4便を増便	上電バス	46,229	51,704	5,475						*1	
		傍陽線	■基本サービスレベルを満たすようダイヤ変更 ■入経井沢方面、10時～11時台に1往復増便	上田市 上電バス	39,698	41,815	2,117	11,689	13,494	1,805			*1	
		豊殿線	■基本サービスレベルの満足及び しなの鉄道との接続によるダイヤ変更	上田市 上電バス	16,772	16,772	0	9,532	9,532	0			*1	
		祢津線	■しなの鉄道との接続によるダイヤ変更	上田市 千曲バス	28,627	26,802	-1,825	9,910	8,655	-1,255			*1	
		佐久上田線	■中心市街地から通勤通学で帰宅できるようにダイヤ変更	千曲バス	24,820	24,820	0						*1	
		中仙道線	■しなの鉄道との接続によるダイヤ変更	上田市、立科町 東信観光バス	16,462	15,866	-596	7,043	6,565	-478			*1	
		丸子線	■18時～19時台に1往復増便	上田市、立科町 東信観光バス	4,725	5,219	494	2,240	2,160	-80			*1	
	再抽出した公共交通不能地域、不便地域解消	真田本原地区 サンライン沿線	■傍陽線の一部便を本原地区及びサンラインへ迂回させる	上田市 上電バス		12,446	12,446		3,897	3,897			*1	
		丸子循環バス	■ルートの変更及びダイヤの変更	上田市 千曲バス	8,729	12,506	3,777	8,349	11,083	2,734	実証運行		*2	
	料金体系の適正化	オレンジバス	■オレンジバスの運行は当面現状維持	上田市 交通事業者	39,990	39,990	0	12,610	12,610	0	オレンジバスが市民に浸透し始めた実情を踏まえ、当面は現状の運行形態を維持する。（一部ルート変更） ルートの在り方、料金体系の変更は今後の検討課題とする。			
効率的な公共交通体系の構築	利用率の低い路線への対応	県道川西線 長野病院線 豊殿線 中仙道線 丸子線	■「基本サービスレベル」に対応したダイヤ改善 ■ダイヤ改善後の利用状況により 「存続」「変更」「廃止」を含めた検討	上田市 上電バス 千曲バス 東信観光バス							当該路線に対しては、「基本サービスレベル」に対応するダイヤ改善を施し、当面はダイヤ改善後の利用状況を判断し、「存続」「変更」「廃止」の方向性を検討する。			
	車両の小型化	県道川西線 豊殿線 丸子線 中仙道線	■「基本サービスレベル」に対応したダイヤ改善 ■該当路線の運行車両は小型車両での運行とする	上田市 上電バス 千曲バス 東信観光バス							当該路線に対しては、「基本サービスレベル」に対応するダイヤ改善を施し、、当面はダイヤ改善後の利用状況を判断し、「存続」となった時点で、交通事業者と協議しつつ、順次車両小型化を行っていく。			
	車両配置非効率路線への対応	県道川西線 豊殿線 丸子線 中仙道線	■「基本サービスレベル」に対応したダイヤ改善 ■配置車両数の削減	上田市 上電バス 千曲バス 東信観光バス							今後、交通事業者と協議しながら、実施可能路線を再検討し、出来るところから順次実施を検討する。			
	既存ストックの活用	各地域	■現在運行中の ショッピングセンターお買物無料巡回バスを活用 ■旅館等の宿泊施設が所有するバスを用いて、地域内におけるバス運行を検討する。	各地域他							中心市街地活性化の視点及びJT跡地との関連から、運行主体企業と協議し、 更なる一般利用促進を目指す。			
											交通事業者と調整を図りつつ、各組織において実施可能性を協議するところから始める。 また、車両等の活用においては十分な安全性を確認する。			

*1:利用状況を検証し、今後の方向性を検討していく。
*2:実証運行の結果により今後の方向性を検討する。

基本方針	施策の内容	具体的施策		施策実施主体	需要積計			市補助金額(千円)			施策実施予定			
					18年度	想定		18年度	想定					
		施策対象	内容				増減			増減	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度以降
地域づくりを支援する公共交通体系の構築	中心市街地活性化支援	市街地循環バス	■ルート及びダイヤの変更	上田市 交通事業者	26,805	29,593	2,788	18,058	30,372	12,314		実証運行	*2	
	塩田地域まちづくり支援	塩田教育施設集積地域	■塩田教育施設集積地域において、大学前駅と各教育施設を結ぶシャトルバスの運行	上田市 交通事業者		2,321	2,321		2,511	2,511		実証運行	*2	
	真田地域まちづくり支援	ふれあいバス	■現在、途中乗降不可能なふれあいバスを途中乗降可能とした運行を検討する。	上田市	7,452	7,452	0	3,361	3,361	0			*1	
	新たな試みへの配慮	武石デマンド交通	■デマンドエリアを拡大する。 ■大屋・丸子方面への便を全て大屋駅発着とする。 ただし、依田窪病院方面は従来どおりとする。	武石商工会	10,208	12,431	2,223	9,618	12,025	2,407	エリア拡大	ダイヤ改正	*1	
		豊殿地区及び地域自主運行システムを導入する地区	■豊殿地域自主運行方式に対する行政支援制度の創設 ■地域自主運行方式導入地域に対する行政支援制度の拡大	上田市							豊殿地区への行政支援		地域自主運行バス導入他地域への拡大	
利用者主体の公共交通体系の構築	高齢者への配慮	各バス路線	■バス料金の補助制度	上田市										
		高齢者向け教室等が行われている施設と各公共交通機関	■公共交通利用促進に繋がるキャンペーン	上田市							交通事業者、各関係機関との協議の上、実施可能な段階になった時点で順次実施していく。			
		各公共交通機関	■高齢者運転免許自主返納支援事業	上田市										
		各バス路線	■バリアフリー車両の導入	上田市 交通事業者							交通事業者と協議の上、導入可能と判断された路線、時期により順次実施していく。			
		各公共交通機関	■バリアフリー交通施設の整備	上田市 交通事業者										
		地域拠点バス停	■バス停待ち合い施設の整備	上田市 交通事業者							交通事業者、各関係機関との協議の上、整備計画の検討を行い、順次整備していく。			
	公共交通利用者への配慮	交通結節点	■交通結節点における分かりやすい案内板の設置	上田市 交通事業者										
		全戸配布	■分かりやすい時刻表と路線図の提供	上田市 交通事業者										
		大屋駅、小泉バス停	■乗り継ぎ料金制度	上田市 交通事業者							交通事業者と協議の上、制度が決定され次第、実施していく。			
		各バス路線	■土・日・祝日のバス運行の検討	上田市 交通事業者							休日の公共交通への依存度は、平日に比べかなり低いため、 当面は現状での運行形態を維持するものとし、状況に応じてダイヤ調整を行う。			
		市街地循環バス 市街地循環バス 上田電鉄別所線	■循環バスの愛称 ■車両の演出	上田市 交通事業者 上田市 交通事業者								中心市街地循環バス 上田電鉄別所線		
		各バス路線と該当施設	■お帰り乗車券 ■買物共通バス券 ■公共交通利用でカードポイント優遇 ■娯楽健康施設のクーポン券付き乗車券 ■環境定期券 ■休日の子供料金優遇	上田市 交通事業者							交通事業者、各関係機関と協議の上、実施可能な施策より順次実施していく。			
	公共交通非利用者への配慮	別所線沿線で大学、研究機関が集積する塩田地区	■モビリティマネジメント	上田市 交通事業者							施策導入の準備、各関係機関との協議の上、実施可能時期となり次第実施する。			
		中心市街地に立地する事業所等	■ノーマイカーデー	上田市 各事業所										
		中心市街地に立地する事業所等	■公共交通利用者優遇制度	上田市 各事業所							交通事業者、各関係機関、企業等と協議の上、実施可能な施策より順次実施していく。			
		中心市街地	■パークプライシング	上田市 各事業所										
	観光客への配慮	上田駅と周辺観光地	■上田駅から菅平高原、湯の丸高原、美ヶ原高原、白樺高原へのサービス拡大の検討	上田市 交通事業者										
需要積計値と市補助金額合計					**961,103**	**989,025**	**27,922**	**110,218**	**141,073**	**30,855**				

*1:利用状況を検証し、今後の方向性を検討していく。
*2:実証運行の結果により今後の方向性を検討する。

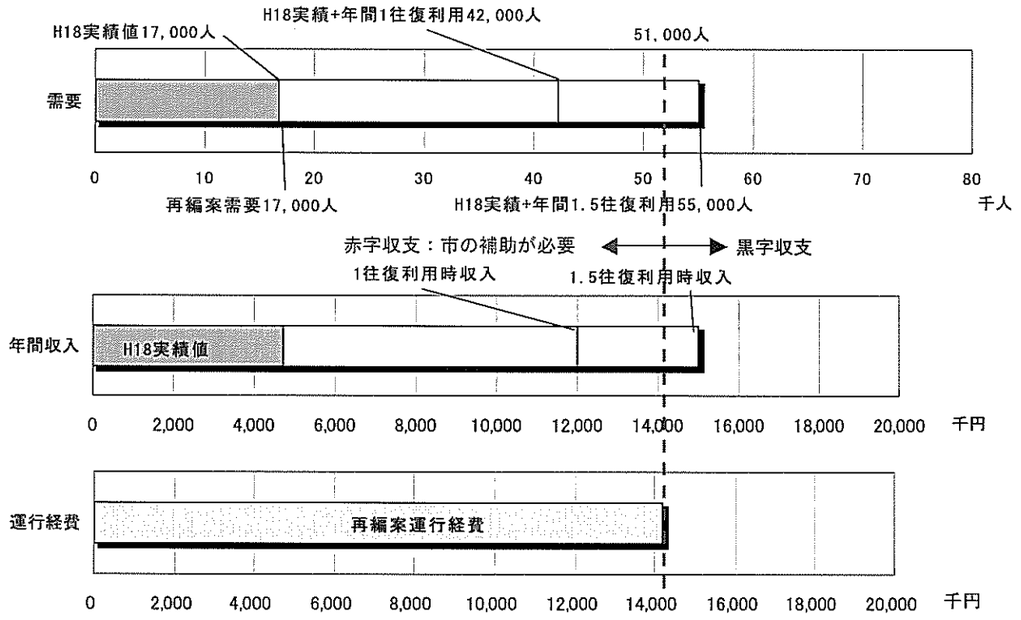
「乗って残そう！」我が地域の公共交通　乗らなくちゃなくなっちゃうよ！！

【需要推計の条件】
- ○ 年○回利用の推計値は地域の 15 歳から 64 歳までの通勤通学者数で計算。
- ○ 「地域の人がその路線に年間何往復乗ったら、これだけ需要が増える！！」との算出をした。
- ○ ただし、バス路線は他地域に跨るため、地域ごとに需要を算出した。下記に示す需要は路線としての各地域合計需要である。
- ○ 利用回数は「行き帰りの１往復」を基本として計算した。

≪豊殿線≫

- ○ 沿線地域人口：約 13,000 人（神科豊殿地域）
- ○ Ｈ18 年度市補助額は約 950 万円であり、豊殿線は年間 950 万円の赤字運行である。
- ○ 再編案実行後の赤字額は年間約 950 万円と予測される。
- ○ 950 万円の赤字を埋めるにはあと年間 1.5 往復の利用が必要である。

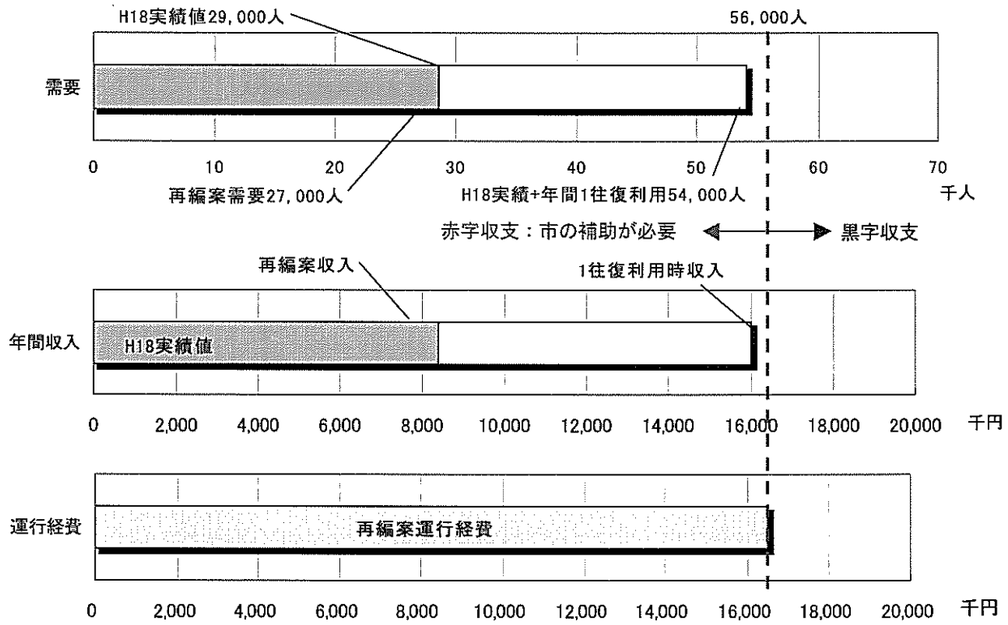
需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に1.5往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
17	4,700	17	4,700	14,200	51	34	42	12,000	55	15,000
約950万円の赤字		約950万円の赤字			年間1.5往復の利用が必要		約220万円の赤字		約80万円の黒字	



≪祢津線≫

- ○ 沿線地域人口：約約 13,000 人（神科豊殿地域）
- ○ Ｈ18 年度市補助額は約 990 万円であり、祢津線は年間 990 万円の赤字運行である。
- ○ 再編案実行後の赤字額は年間約 860 万円と予測される。
- ○ 860 万円の運行経費を運行収入で賄うためには年間１往復の利用が必要である。

需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）					
29	8,400	27	7,900	16,500	56	27	54	16,000
約990万円の赤字		約860万円の赤字			年間1往復の利用が必要		約50万円の赤字	

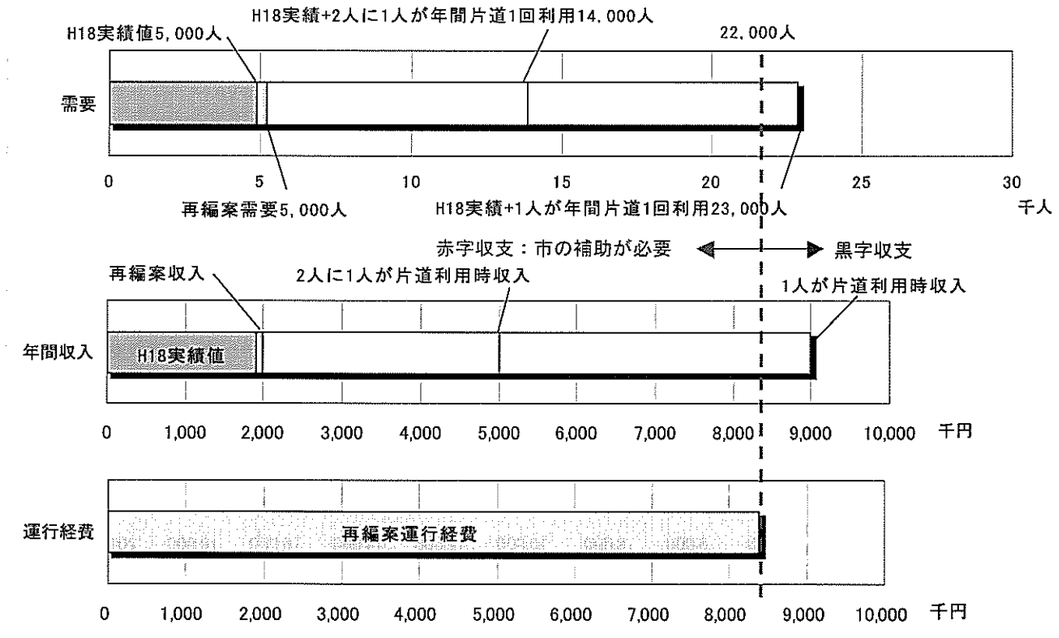


「乗って残そう！」我が地域の公共交通　乗らなくちゃなくなっちゃうよ！！

≪県道川西線≫

- ○ 沿線地域人口：約 9,000 人（城南地域）
- ○ H18 年度市補助額は約 650 万円であり、県道川西線は年間 650 万円の赤字運行である。
- ○ 再編案実行後の赤字額は年間約 640 万円と予測される。
- ○ 640 万円の赤字を埋めるには年間片道 1 乗車の利用が必要である。

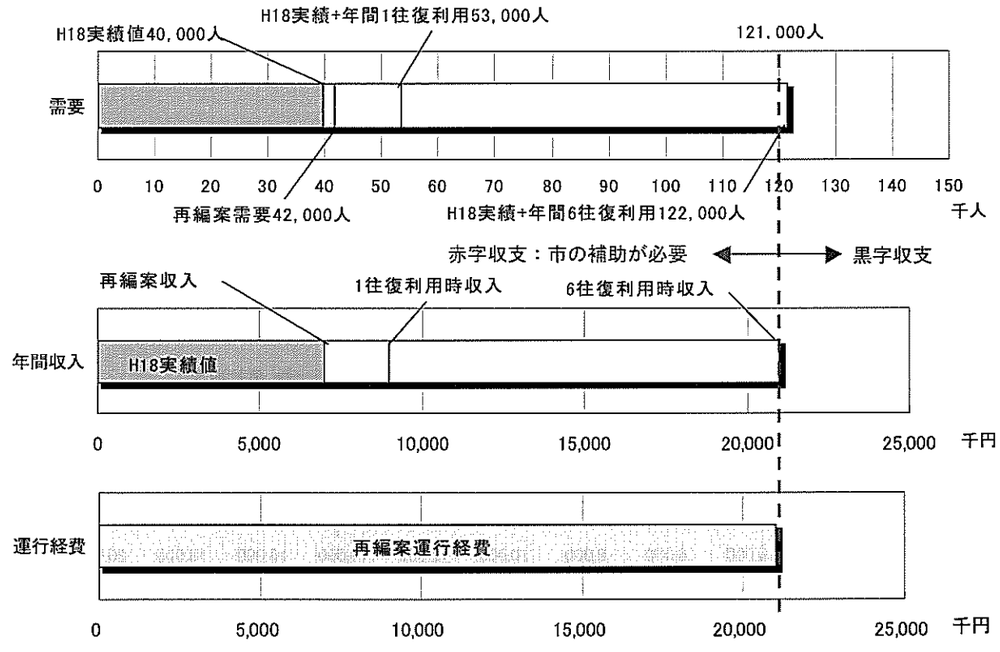
需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に片道1乗車利用したら		沿線の15歳～64歳の2人に一人が年に片道1乗車利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18~必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
5	1,900	5	2,000	8,400	22	17	23	9,000	14	5,000
約650万円の赤字		約640万円の赤字			年間片道1乗車の利用が必要		約60万円の黒字		約340万円の赤字	



≪傍陽線≫

- ○ 沿線地域人口：約 7,000 人（真田地域）
- ○ 算出区間は真田自治センター～大倉・入軽井沢間。
- ○ H18 年度市補助額は約 1,200 万円であり、傍陽線は年間 1,200 万円の赤字運行である。
- ○ 再編案実行後の赤字額は年間約 1,400 万円と予測される。
- ○ 1,400 万円の赤字を埋めるにはあと年間 6 往復の利用が必要である。

需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に6往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18~必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
40	7,000	42	7,000	21,000	121	81	53	9,000	122	21,000
約1,200万円の赤字		約1,400万円の赤字			年間6往復の利用が必要		約 1,200 万円の赤字			

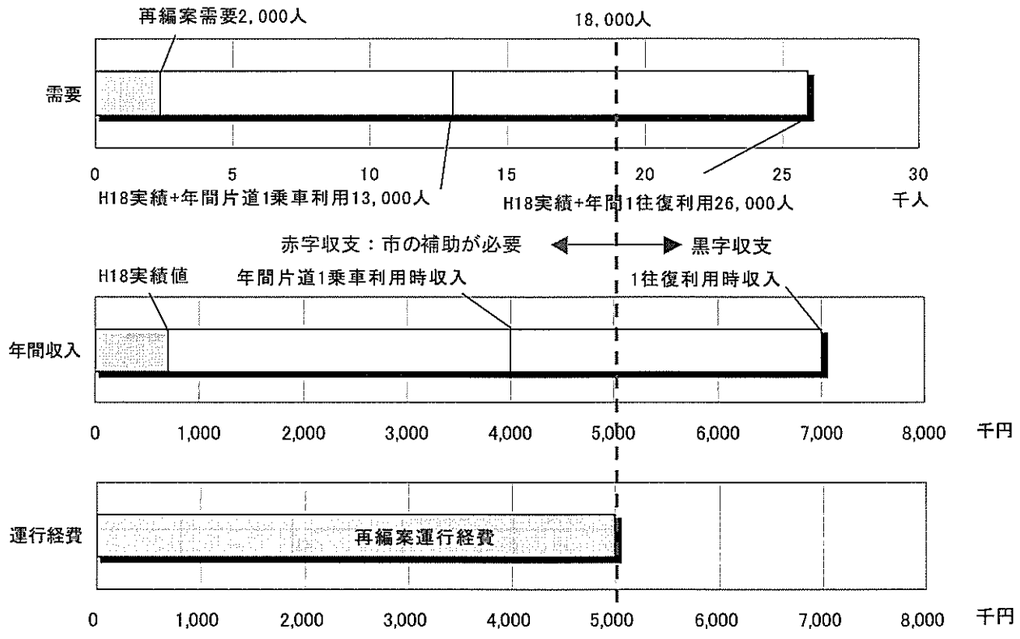


「乗って残そう！」我が地域の公共交通　乗らなくちゃなくなっちゃうよ！！

≪サンライン経由≫

- ○ 沿線地域人口：約 13,000 人（内真田地域：7,000 人、神科豊殿地域：6,000 人）
- ○ 新規路線である。
- ○ 需要、経費及び収入の算出区間は祢津線の小井田入口～真田自治センター間である。
- ○ 運行経費は年間約 500 万円と予測される。
- ○ 500 万円の運行経費を運行収入で賄うためには年間片道 1 乗車～1 往復の利用が必要である。

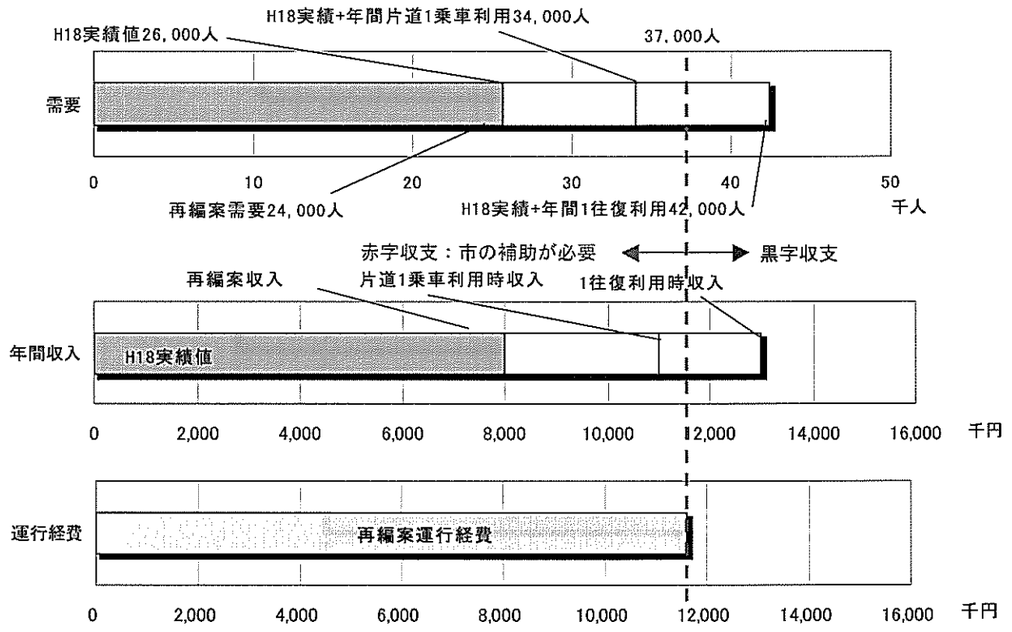
需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に片道1乗車利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) 予測-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
		2	700	5,000	18	16	26	7,000	13	4,000
		約430万円の赤字			年間0.5～1往復の利用が必要		約200万円の黒字		約100万円の赤字	



≪武石線≫

- ○ 沿線地域人口：約 9,000 人（内武石地域：2,000 人　丸子地域：7,000 人）
- ○ H18 年度市補助額は約 550 万円であり、武石線は年間 550 万円の赤字運行である。
- ○ 再編案実行後の赤字額は年間約 420 万円と予測される。
- ○ 420 万円の運行経費を運行収入で賄うためには年間片道 1 乗車～1 往復の利用が必要である。

需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に片道1乗車利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
26	8,000	24	7,400	11,600	37	11	42	13,000	34	11,000
約550万円の赤字		約420万円の赤字			年間片道1乗車～1往復の利用が必要		約140万円の黒字		約60万円の赤字	

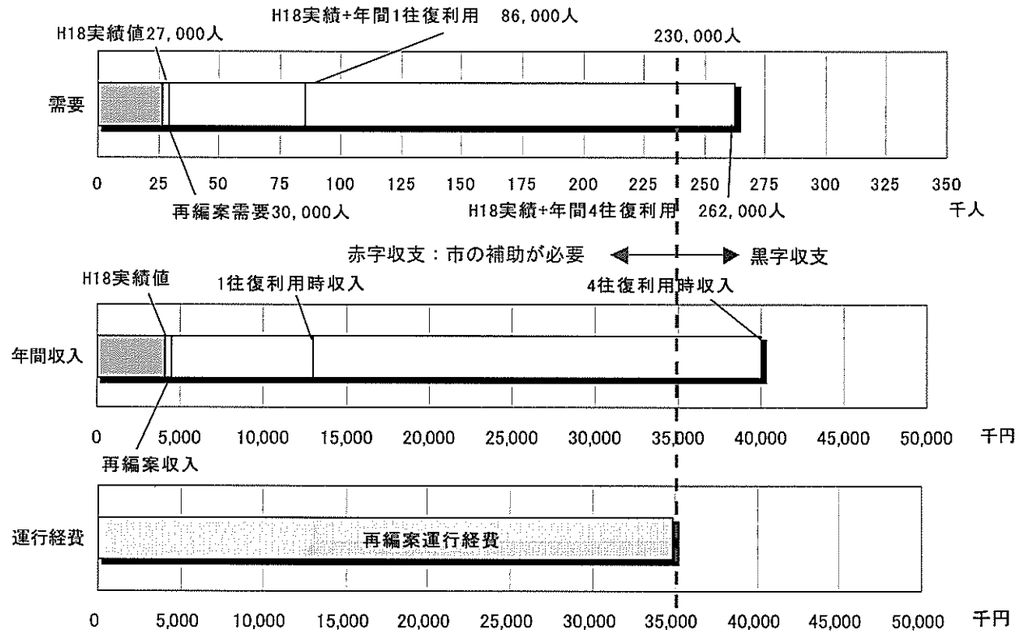


「乗って残そう！」我が地域の公共交通　乗らなくちゃなくなっちゃうよ！！

≪市街地循環線≫

- ○ 沿線地域人口：約 30,000 人（内中央地域：20,000 人　西部地域：10,000 人）
- ○ Ｈ18 年度市補助額は約 1,800 万円であり、市街地循環線は年間 1,800 万円の赤字運行である。
- ○ 再編案実行後の赤字額は年間約 3,000 万円と予測される。
- ○ 3,000 万円の運行経費を運行収入で賄うためには年間片道 3～4 往復の利用が必要である。

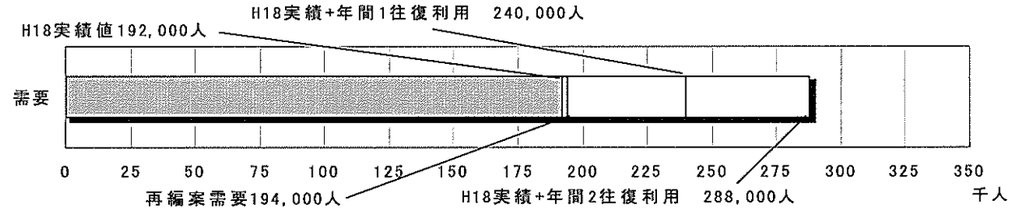
需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に4往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
27	4,100	30	4,500	34,900	230	204	86	13,000	262	40,000
約1,800万円の赤字		約3,000万円の赤字			年間3～4往復の利用が必要		約2,200万円の赤字		約510万円の黒字	



≪鹿教湯線≫

- ○ 沿線地域人口：約 24,000 人（内中央地域：10,000 人、丸子地域：14,000 人）
- ○ 年 1 往復利用すると約 50,000 人増加する。

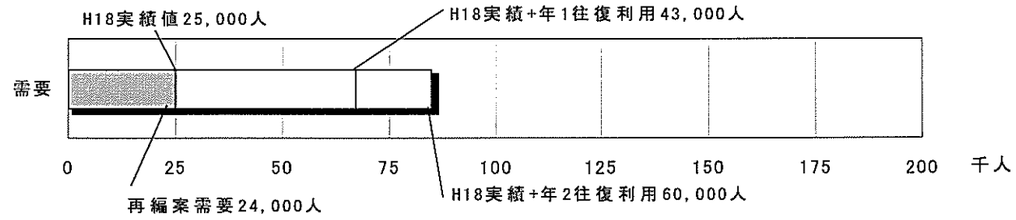
需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に2往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
192	—	194	—	—	—	—	240	—	288	—



≪平井寺経由鹿教湯線≫

- ○ 沿線地域人口：約 9,000 人（内川西地域：1,500 人、塩田地域：4,600 人、城南地域：2,900 人）
- ○ 年 1 往復利用すると約 18,000 人増加する。

需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の65歳以上の人が年に1往復利用したら		沿線の65歳以上の人が年に2往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
25	—	24	—	—	—	—	43	—	60	—

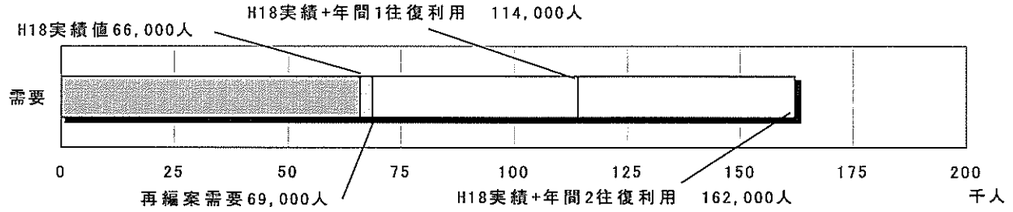


「乗って残そう！」我が地域の公共交通　乗らなくちゃなくなっちゃうよ！！

≪長久保線≫

○ 沿線地域人口：約 24,000 人（内中央地域：10,000 人、丸子地域：14,000 人）
○ 年１往復利用すると約 50,000 人増加する。

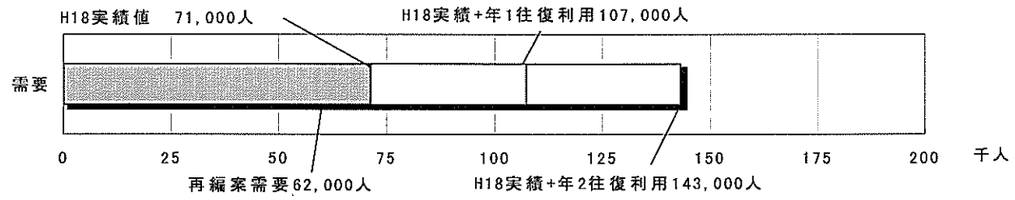
需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に2往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18−必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
66	—	69	—	—	—	—	114	—	162	—



≪真田線≫

○ 沿線地域人口：約 18,000 人（内中央地域：11,000 人、真田地域：7,000 人）
○ 年１往復利用すると約 36,000 人増加する。

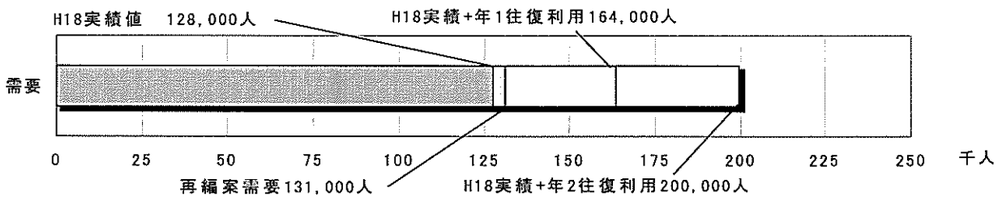
需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に2往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18−必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
71	—	62	—	—	—	—	107	—	143	—



≪菅平高原線≫

○ 沿線地域人口：約 18,000 人（内中央地域：11,000 人、真田地域：7,000 人）
○ 年１往復利用すると約 36,000 人増加する。

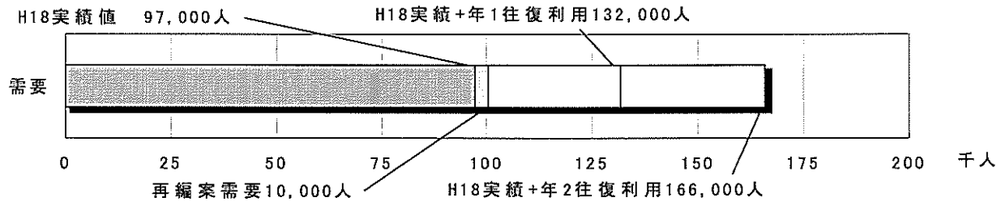
需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に2往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18−必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
128	—	131	—	—	—	—	164	—	200	—



≪青木線≫

○ 沿線地域人口：約 17,000 人（内川西地域：5,000 人、城南地域：12,000 人）
○ 年１往復利用すると約 34,000 人増加する。

需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に2往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18−必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
97	—	100	—	—	—	—	132	—	166	—

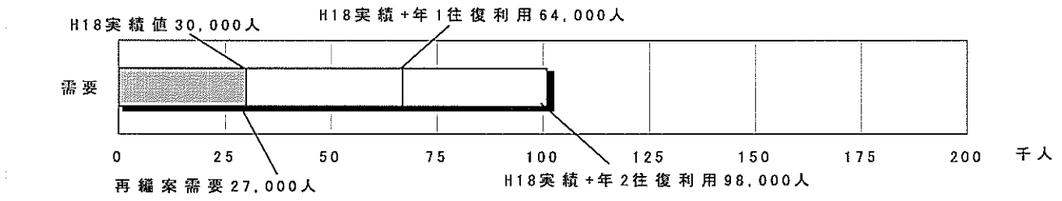


「乗って残そう！」我が地域の公共交通　乗らなくちゃなくなっちゃうよ！！

≪室賀線≫

○ 沿線地域人口：約 17,000 人（内川西地域：5,000 人、城南地域：12,000 人）
○ 年 1 往復利用すると約 34,000 人増加する。

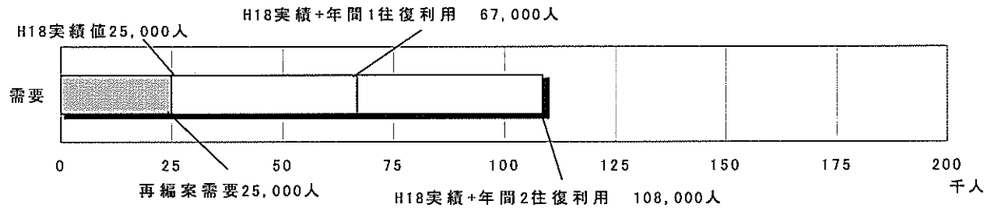
需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に2往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
30	―	27	―	―	―	―	64	―	98	―



≪佐久上田線≫

○ 沿線地域人口：約 21,000 人（中央地域）
○ 年 1 往復利用すると約 42,000 人増加する。

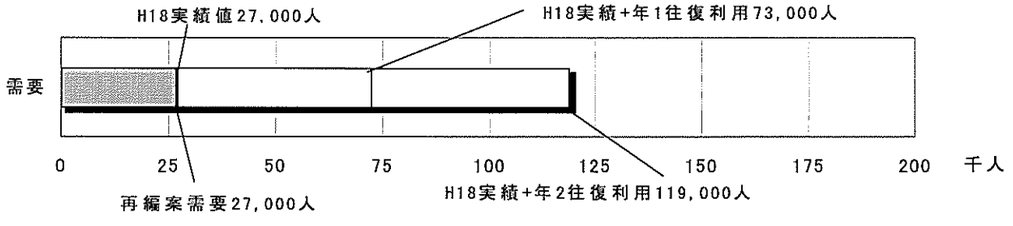
需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に2往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
25	―	25	―	―	―	―	67	―	108	―



≪塩田線≫

○ 沿線地域人口：約 23,000 人（内塩田地域：13,000 人、城南地域：10,000 人）
○ 年 1 往復利用すると約 50,000 人増加する。

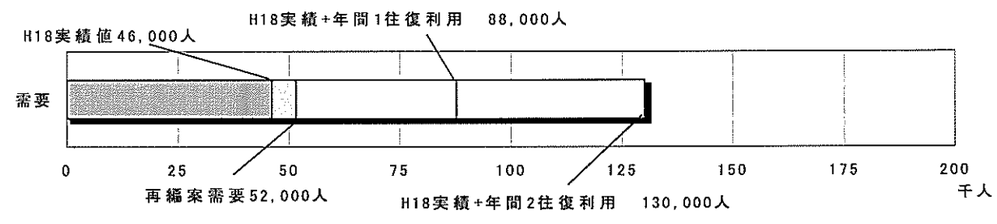
需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に2往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
27	―	27	―	―	―	―	73	―	119	―



≪長野病院線≫

○ 沿線地域人口：約 21,000 人（中央地域）
○ 年 1 往復利用すると約 42,000 人増加する。

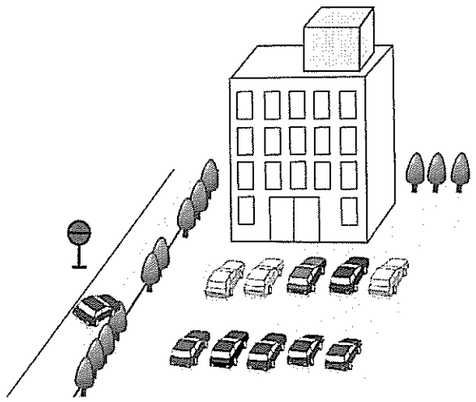
需要・運賃収入				再編案運行経費（千円）	運行経費を運賃収入でまかなうためには		沿線の15歳～64歳の人が年に1往復利用したら		沿線の15歳～64歳の人が年に2往復利用したら	
平成18年度実績		再編案実行後			必要年間需要（千人）	不足需要(千人) H18-必要需要	需要（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）
利用者数（千人）	運賃収入（千円）	需要（千人）	運賃収入（千円）							
46	―	52	―	―	―	―	88	―	130	―



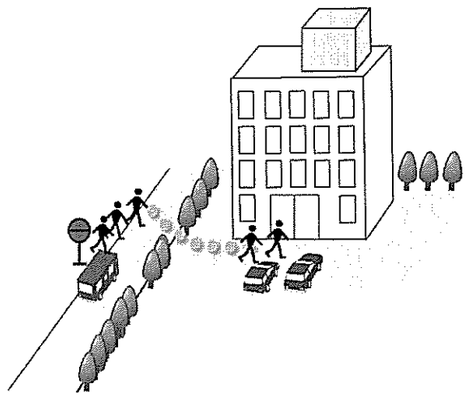
「乗って残そう！」我が地域の公共交通　乗らなくちゃなくなっちゃうよ！！

組織として取り組むノーマイカーデーへの協力

≪通常は自動車で≫

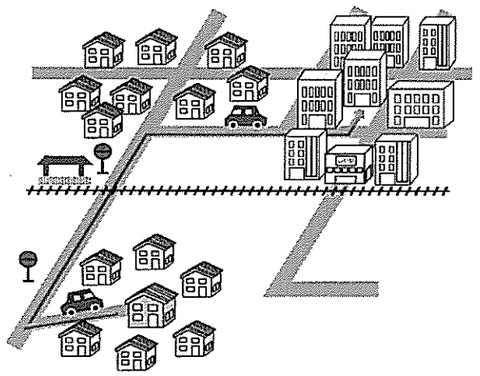


≪会社として「ノーマイカーデー」を実施≫

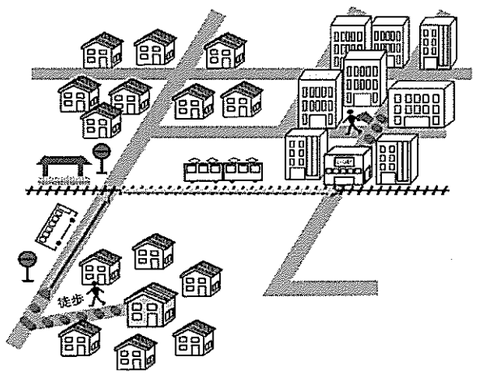


自らの意思で「たまには環境にやさしい公共交通で」

≪通常は自動車で≫

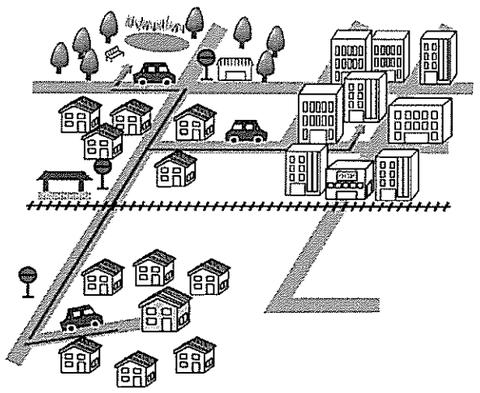
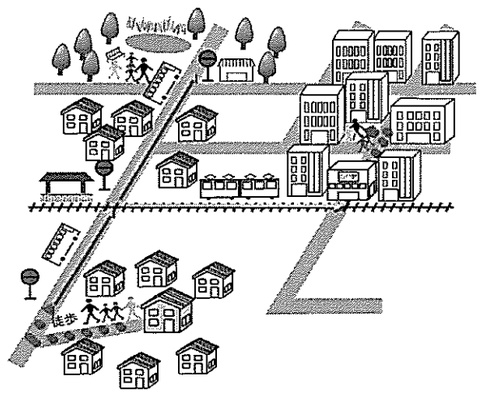


≪健康のため、環境のため、たまには公共交通で≫



「家族での買物・行楽も、たまには公共交通で」

≪通常は自動車で≫



≪たまには公共交通で買物、行楽に≫